

平成三十一年度群馬県立女子大学文学部国文学科前期日程入学試験問題



語

(一〇〇分)

(注意事項)

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないこと。
- 2 問題冊子は一冊(1頁から15頁)、解答用紙は二枚(問題一用紙と問題二用紙)あるので注意すること。
- 3 用紙の脱落や汚れに気づいた場合は、手をあげて監督者に知らせること。
- 4 試験開始直後に、各解答用紙の所定の箇所に受験番号と氏名を記入すること。
- 5 解答は、すべて解答用紙の解答欄内に記入すること。



問題一

(100点)

(一) 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

一九三四年、ヒトラーをはじめとする独裁者たちがヨーロッパ各国で、タイトウし、全体主義が勢いを増すなか、クラウスは、「今日、言葉以外はすべてを支配している独裁制」に抗するために、改めて、〈言葉の実習〉を行うよう訴えている。政治やジャーナリズムの場では、「言語を支配することができるといふ妄想」がしばしば湧き起こる。そして、ナチスのプロパガンダの成功は、あたかもその妄想が真実であるかのような錯覚を覚えさせる。実際、オーウェルは、「独裁制の結果、ドイツ語もロシア語もイタリア語もすべて、これから十年から十五年の後に墮落してしまふ」という見通しを述べている。とはいえ、言語それ自体が——というより、人々が言語を使用してきた長く複雑な歴史が——墮落するということはありえない。独裁制にせよ、他の政治形態にせよ、言語それ自体を支配することはできないのだ。可能なのは、それが カエリ みられなくなること、忘れ去られることである。すなわち、人々が常套句の使用で妥協し、感受性や想像力を麻痺させることによって、言葉同士の繊細な表情の違いを感じられなくなることである。

クラウスはこう言いたかったのだろう。世界が不確かさに オオわれ つつあるように映り、不安や孤独に襲われたとしても、我々は言語不信に陥って誰か（マス・メディア、カリスマ、独裁者）の言葉に身を任せるのではなく、言語の可能性をこそ信頼し、言語の豊饒さによって触発される「迷い」を「贈り物」として祝福するべきではないのか、と。

しかし、クラウスの訴えは 陶酔と熱狂 の声にかき消された。戦火が広がり、十余年にわたって続いた第二次世界大戦の悪夢が終わってから、現在ではさらに七十年以上が経過している。いまや、インターネット技術を背景にしたソーシャル・メディアが発達し、個人が世界中の不特定多数の人々に向けて自分の主張を発信することができるよ

うになった。それと反比例して、大新聞やテレビなどのマス・メディアはその影響力を弱めつつあると言われることもある。仮にその見立てが正しいとすれば、時局と深く切り結んだ<sup>②</sup>クラウスの警告はもはや過去のものとなったかに見える。「我々はもう、マス・メディアが自分の思っていたことを代弁していると思なすことはないし、マス・メディアの言葉をただ繰り返すようなこともない」、そう言われるかもしれない。

現在のマス・メディアが、クラウドが直接対峙<sup>たいじ</sup>していたものと同様の影響力をもっていないという見方は、多分に疑わしい。だが、たとえ仮にその見方を受け入れたとしても、状況はむしろさらに悪くなりつつあると言えるのではないか。自分の主張として他者の言葉をそのまま反復することは、まさにソーシャル・メディア・サービスの<sup>ド</sup>オン<sup>ド</sup>ケイを受ける現在の方が遙<sup>はる</sup>かに簡単である。実際、いま急速に拡大しているのは、他者の言葉に対する何の留保もない相乗りと反復に過ぎないのではないか。秒単位のタイムスタンプが押された言説がリアルタイムで無数に流れる状況にあつては、言葉を発する方も受ける方も、<sup>③</sup>自他の言葉に耳を澄ますどころか、時間に追いついてられ、タイムイン<sup>グ</sup>よく言葉を流す即応性に支配されているのではないか。「リツイート」や「シェア」等の反射的な引用・拡散や、「いいね」等の間髪入れない肯定的反応の累積がもたらすのは、それによって単に重量を増した言葉が他の言葉を押しけるという力学であり、かつてない速度と規模をもつデマや煽動<sup>せんどう</sup>の生産システムではないのか。あるいは、そうした引用・拡散や肯定的反応を誘うような言葉を発するという、<sup>④</sup>絶え間ない常套句の生産システムではないのか。称賛も非難も、議論や煽<sup>あお</sup>り合いも、結局のところ常套句（あるいは、それよりさらに寿命が短く適用範囲の狭い流行語）の使用へと硬直化し、その反復や<sup>⑤</sup>オウシユウの勢いと熱量が、物事の真偽や価値の代用品となってしまうのではないか。そうして、我々が向かおうとしているのは、重量と勢いと熱量のある声への——その声を代表する誰かへの——「迷い」なき同調と一体化の空間なのではないか。つまり、我々は結局、誰かに対して、マス・メディアを介することすらなく、じかに身を任せるようになりつつあるだけではないか。否、むしろ我々は、誰かですらないよ

うな、空気や雰囲気や流れといった曖昧な何かに、じかに融け込みつつあるだけではないのか。

これらの問いすべてにイエスと答えることは、あまりにシニカルで悲観的に過ぎるだろう。情報技術の革命的な進歩と、それを個々人に開放するプラットフォームの整備と、それと共に立ち現れてきた社会の新たな様相に対して、不信を振り撒まいているだけなのかもしれない。しかし、これらの問いを杞憂きゆうと言いつつ切ることもしないはずである。誰しも自分の話す言葉に耳を傾け、自分の言葉について思いを凝らし始めなければならない、というクラウドスの呼びかけは、他のどの時代よりも、まさにいま現在の我々に突きつけられていると言えるだろう。

(古田徹也『言葉の魂の哲学』による)

問1 傍線部①「陶醉と熱狂の声にかき消された」とはどういうことか。説明しなさい。

問2 傍線部②「クラウドスの警告はもはや過去のものとなったかに見える」とあるが、それはなぜか。説明しなさい。

問3 傍線部③「自他の言葉に耳を澄ます」とはどういうことか。説明しなさい。

問4 傍線部④「常套句の生産システム」とはどういうものか。説明しなさい。

問5 傍線部⑤「曖昧な何かに、じかに融け込みつつある」とはどういうことか。説明しなさい。

問6 波線部 a ~ e のカタカナを漢字で書きなさい。

(三) 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

こちらの部分は、著作権の都合により、ウェブサイトでの公表はしていません。



こちらの部分は、著作権の都合により、  
ウェブサイトでの公表はしていません。

(新井卓「草陰の小径で」による)

問1 傍線部①「世界にかたちを見いだす」とはどういうことか。説明しなさい。

問2 傍線部②「言葉の手前でただ純粹に見る」とはどういうことか。説明しなさい。

問3 傍線部③「見るものが運動である」とはどういうことか。説明しなさい。

問4 傍線部④「意味と言葉の津波から疎開させよう」とあるが、「意味と言葉の津波から疎開させ」とはどういうことか。説明しなさい。

問5 傍線部⑤「別の感覚のやわらかい先触れ」とはどういうものか。説明しなさい。

問6 傍線部⑥「わたしたちは出会う」とあるが、何と出会うのか。説明しなさい。

問題二

(100点)

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

筆者はかつて後深草院に仕えた女房であるが、院の御所を出て尼の身となっている。そのような筆者のもとに後深草院病臥びょうがの噂が聞こえてきた。院は回復せずそのまま崩御する。その夜、筆者は院の御所を訪れた。

夜もやうやう更けゆけども、帰らむ空もおぼえねば、空しき庭に一人ゐて、昔を思ひつづければ、折々の御面影、ただ今の心地して、何と申し尽くすべき言の葉もなく、悲しくて、月を見れば、さやかに澄み昇りて見えしかば、

くまもなき月さへつらき今宵かな曇らばいかにうれしからまし

釈尊入滅の昔は、日月も光を失ひ、心なき鳥、獣けだものまでも愁へたる色に沈みけるにと、げにすすろに月に向ふ眺めさへつらくおぼえしこそ、我ながらせめてのことと思ひ知らればべりしか。

夜も明けぬれば、立ち帰りても、なほのどまるべき心地もせねば、平中納言のゆかりある人、御葬送奉行と聞きしに、ゆかりある女房を知りたることはべりしを尋ねゆきて、「御棺くわんを遠とほなりとも今一度見せたまへ」と申ししかども、かなひがたきよし申ししかば、思イひ、やる方ウなくて、いかなる隙ひまにても、さりぬべきことやと思ふ。試みに女房の衣をかづきて、日暮し御所にたたずめどもかなはぬに、すでに御格子参るほどになりて、御棺の入らせたまひしやらむ、御簾みすの透とほりより、やはらたたずみ寄りて、灯ひの光ばかり、さにやとおぼえさせおはしましたし、目エも暮れ、心もまどひてはべりしほどに、「事注なりぬ」とて、御車みくるま寄せまゐらせて、すでに出でさせおはしますに、持明院殿どの御所、門かどまで出でさせおはしまして、帰り入らせおはしますとて、御直衣なほしの御袖にて御涙を払はせおはしましたし御気色みけしき、さこそと悲しく見まゐらせて、やがて京極面みやうごくおもてより出でて御車の後しりに参るに、日暮し御所にさぶらひつるが「事なりぬ」とて御車の寄りしにあわてて、履はききたりし物もいづ方へか行きぬらむ、はだしにて走り降りたるままにて参

りしほどに、五条京極を西へやりまはずに、大路に立てたりし竹に御車をやりかけて、御車の簾すたれかたかた落ちぬべしとて、御車みくるまぞひ副登りて直しまるらするほど、つくづくと見れば、山科の中将入道そばに立たれたり。墨染の袖も絞るばかりなる気色、さこそと悲し。

ここよりや止まる止まると思へども、立ち帰るべき心地もせねば、しだいに参るほどに、物は履かず、足は痛くて、やはらづつ行くほどに、皆人カには追ひ遅れぬ。藤の森といふほどにや、男一人会ひたるに、「御幸、先立たせおはしましぬるにか」と言へば、「稲荷の御前をば御通りあるまじきほどに、いづ方へとやらむ参らせおはしましてしかば、こなたは人もさぶらふまじ。夜ははや寅になりぬ。いかにして行きたまふべきぞ。いづくへ行きたまふ人ぞ。過ちすな。送らむ」と言ふ。

空しく帰らむことの悲しさに、泣く泣く一人なほ参るほどに、夜の明けしほどにや、事果ツてて空しき煙の末ばかりを見まらせし心の中、今まで世に長らふべしとや思ひけむ。

(『とはすがたり』より)

注1 事なりぬ …用意ができた。

注2 持明院殿の御所 …伏見院。後深草院の第一皇子。

問1 二重傍線部「さにやとおぼえさせおはしもしも」を例にならって品詞分解しなさい。

〔例〕

形容動詞・ 連用形	名詞	助詞	動詞・ 未然形	助動詞・尊敬・ 連用形	補助動詞・ 終止形	助動詞・推量・連体形 (撥音便無表記)	助動詞・伝聞・ 連体形	助詞
にはかに	宮	へ	渡ら	せ	たまふ	べか	なる	を

問2 傍線部イ「思ひ、やる方なくて」、エ「目も暮れ」、オ「心もまどひて」をそれぞれ現代語訳しなさい。

問3 傍線部ア「くまもなき月さへつらき」とあるが、どういうことか。説明しなさい。

問4 傍線部ウ「いかなる隙にても、さりぬべきことやと思ふ」を、指示内容を明確にして分かりやすく現代語訳しなさい。

問5 傍線部カ「皆人には追ひ遅れぬ」とあるが、どうしてこのようなことになったのか。理由を説明しなさい。

問6 傍線部キ「御幸、先立たせおはしましぬるにか」を分かりやすく現代語訳しなさい。

問7 傍線部ク「事果てて空しき煙の末ばかりを見まゐらせし」とあるが、どういうことか。説明しなさい。

